

## プライベートな創作のための空間 シュウエムラアトリエ

東京・青山

### 空間のメタモルフォズ

閑静な青山の一角に高級賃貸住宅として建てられた広いテラスを持つメゾネットが今回の現場である。南に面したテラス越しに四季を彩る公園の緑が目飛び込む。既存内装の解体が始まったのが、冬枯れの時期。満開の桜から新緑へと移り変わる季節の変化に呼応するようにわれわれのプロジェクト「空間メタモルフォズ」も以下の流れで進化した。

①メタモルフォズ

1. 4階のメゾネット上層を見る
2. 螺旋階段を取り巻く円形のオフィスデスク
3. 光のリングをまとったメーキャップカウンター



1

アーティストのプライベートアトリエとして、官能的かつオーガニックな温かみに満ちた。その空間に身を置くだけで心地よい“穴”の創造を目指し、柔らかな官能性を持つ創造空間に包まれる感覚+自然感+大地のイメージをつくる。

櫃→カナベ (ソファ) →円形カウンター→弓形照明→円形オフィスデスク→螺旋階段→丸形マキャワール (メイク台) へと白のマスが変化していく。

既存のボード張りの壁・天井の仕上げを破



2

撮影/石井紀久

230

壊し、すべてをオレンジに。マティエール感の乏しい無機質な既存空間から快い異質さへと変化させる。

採光に関しては、テラスに面した遮断のないこのコンテキストを少しでも改良するため、外部の採光を反射しすぎる白から光

を吸収する役割を担う「オレンジ」へ。空間自体が“穴”である抽象性に対する空洞としての具象性を丸窓で表現する。

② カラーの選択：白とオレンジ、対極のバランスを遊ぶ  
有機的なオレンジに対する白：白の「強靱

さ」をベースとする。アーティスト、シュウ・ウエムラのカラーの集大成、基本としての白。白のマスの什器・家具と柔らかな流れ=線としてのコンビネーション

③ マスボリュームと線、対極のバランスを遊ぶ



4. C字型のアトリエカウンター。弓形の照明が突き抜け上部へと伸びていく
5. 壁面のソファと櫃を見る

### 《シュウ ウエムラアトリエ》データ

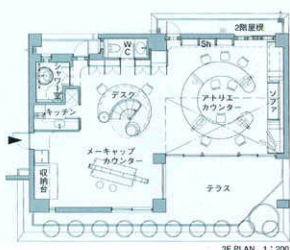
工事種別：内装のみ 新築 床面積：109.50㎡ 工期：2002年1月15日～3月30日 施工協力：照明器具/マックスレイ (主な仕上げ材料)  
床：既存フローリング下地ココヤシカーベット 壁：LGS組みPB下地AEP 天井：既存下地AEP 家具・什器：メーキャップカウンター/透明アクリル接着130 照明リング/スチールフレーム組みアクリル乳半 (スリムランプ内蔵) アトリエカウンター/天板・木下地ウレタン塗装 造作照明/スチール焼き付け塗装 (スリムランプ内蔵) + スポットライト

三つの機能=マスボリュームでのゾーニングと線 (流れ) とバランス。

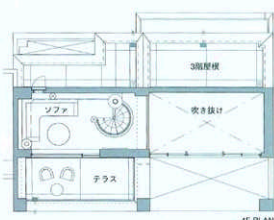
1) アトリエ作業スペース：カウンター (マス) と弓形照明 (線、流れ) 2) オフィス

スペース：螺旋階段 (線、流れ) と円形オフィスデスク (マス) の一体化デザイン 3) メークコーナー：丸形マキャワール (マス) + (線、流れ)

弓形照明と丸形マキャワール (メイク台) は大地から表出するイメージ。そしてここでは白のマスは光へと「究極のメタモルフォズ」に到達する。(金子文子-アンリ・ゲイタン)



3F PLAN 1:200



4F PLAN